

令和 2 年度青森県地域医療構想調整会議（書面開催）に係る意見等と対応

No.	構想 区域	意見の内容（一部要約）	意見への対応	提出者
1	青森	(資料5：病院プロフィールシート 19～20頁：補足説明) 別添、補足資料「結核病棟の運営について」のとおり	構成員に情報共有します。	独立行政法人 国立病院機構 青森病院

結核病棟の運営について

1. 背 景

青森病院では、平成30年4月1日から33床で運営しており、令和2年度実績（2月まで）で入院患者数13.0名（結核病床稼働率は39.4%）と極めて低く、33床の維持は運営的に支障を来している。また、結核病棟の建物は、昭和52年に建築（平成14年増築）したものであり、既に40年以上経過し現状のままでは病床を維持することは難しい状況となっている。

よって、今般の新型コロナウイルス感染症対策等、有事の際に柔軟に対応できるよう、改修整備も視野に入れて今後の運用を検討しているところである。

2. 新型コロナウイルス感染症流行後の状況

新型コロナウイルス感染症流行後の当院における結核患者の状況は、新型コロナウイルス感染症に伴う結核患者の掘り起こし、他院の結核病床のコロナ病棟転換に伴う結核患者受け入れ増、八戸地域から入院患者増により、結核患者は増加傾向にある。（R1 9.6名、R2 13.0名）加えて当院では結核病棟の一部を用途変更し、帰国者・接触者外来を設置して新型コロナウイルス感染症に対する診療を行っている。

今後の対応としては前段でも触れているとおり、南側にしかない陰圧設備、狭隘なスタッフステーション等の改修整備も視野に入れていく。また、結核と併せて一般の呼吸器疾患や今般の新型コロナウイルス感染症等のような、有事の際にも柔軟に対応できる診療体制を構築していきたい。

3. 今後の対応計画

現在の結核診療担当医師は令和6年度で退職となるが、弘前大学呼吸器内科学講座より、当院の結核医療への協力について、内諾を得ている。また、令和3年2月に青森県健康福祉部長、青森県医師会長と面談し、当院の結核病棟運営の現状および将来構想等の方向性について、了解を得ている。

今後は青森県や関係機関と運営協議を進めていき、結核指定医療機関としての機能の維持、診療機能の拡大を図る。